

臨床研修管理委員会

《概要》

当院は管理型の厚生労働省指定臨床研修施設であり、初期研修プログラムに従って初期研修をおこなっている。当院単独コースの定員は各年度4名であり、それ以外に研修協力病院として1年目当院、2年目大阪大学附属病院を1名、1年目当院、2年目大阪市立大学附属病院を2名、合計3名のたすきがけ研修コースを採用している。

研修については本年度より新制度となり、1年目内科6ヶ月が必修（一般内科3ヶ月、循環器内科2ヶ月、脳血管センター1ヶ月）、救急（麻酔科、救命救急センター）3ヶ月、必修選択科として外科3ヶ月（このうち2週間程度協力病院である精神科の七山病院で研修）、2年目は地域医療（地域の開業医についての研修）1ヶ月、ささえあい人権団体 COMLI 1週間、国際外来、救急隊同乗など院内研修1週間の他は自由選択となっている。

平成23年度は、1年目研修医は当院単独コースの4名および大阪大学からのたすきがけ1名、大阪市立大学からのたすきがけ2名、2年目研修医は当院単独コース1名の計8名で研修を行った。

平成19年度より1年目に府立泉州救命救急センターのローテートを行っているが、平成25年度の当院と泉州救命救急センターとの統合をみすえて、当院救急部に救命センター医師が出向し当院での救急診療についても研修医の指導を行っている。また、適宜救命救急センターとの合同症例検討会も開催している。外科救急が輪番制行っており救急患者をの診療に救急研修の症例を確保するためかかりつけ患者はもちろん救急搬送や、紹介患者については可能な限り受け入れる方針としている。また、救急医の経験のある麻酔科医による救急カンファレンスを週1回開催している。

国際外来医療英語通訳が講師を担当する医療英会話教室を主として研修医を対象として月1回開催している。その他、研修全員を対象とした研修会として、臨床集談会を毎月1回（平成23年度は年間10回）、CPCは年間5回開催した。

当研修管理委員会は月1回定例で行っており、臨床研修を行っていく中での当院の臨床研修プログラムの問題点や研修医の評価（EPOCHを用いて行っている）などのほか救急外来等でどの程度の医療行為を研修医が単独で行ってよいかなどについても、論議している。研修医が単独ではならない医療行為についてはイントラネットに掲載している。